

# 横尾 誠一 論文内容の要旨

## 主論文

Factors associated with overall satisfaction level of older people regarding medical-health and long-term care service within residential areas

地域医療福祉サービスに対する在宅療養高齢者の総合満足度の関連要因

横尾 誠一, 本田 純久, 岩永 竜一郎, 田中 悟郎

ACTA MEDICA NAGASAKIENSIA in press

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻  
(主任指導教員: 田中 悟郎 教授)

## 緒言

高齢化が進行する日本の各地域において、在宅で療養する高齢者が居住地域で安心して生活できるよう、高度急性期医療から在宅医療、介護までの一連の医療福祉サービスの確保と質の向上への取り組みが行われている。

在宅で療養する高齢者への医療福祉サービスの質の向上には、高齢者自身による医療福祉サービスの満足度を明らかにすることが重要である。ケアの満足度に関する先行研究では、年齢、性差、人種、学歴等の個人特性により満足度の検証をしている研究が多い。また、在宅におけるケアサービスの満足度に関しては、福祉サービスの中の一ケアサービスに対しての満足度に関する研究や医療サービスの中の一医療サービスに対する満足度に関する研究が多い。しかしながら、高齢者の居住地域における医療サービスと福祉サービスの総合評価に関する研究は十分ではない。

そこで、本研究では、在宅で療養する高齢者を対象として居住地域の医療福祉サービスの総合満足度に関連する要因を明確にすることとした。

## 対象と方法

対象者は長崎県内の通所リハビリテーション施設(長崎市内1, 西彼杵郡2, 諫早市1の計4施設)を利用している高齢者である。除外基準は主治医より認知症の診断を受けている者、あるいは、調査時に心身の調子が不良のために施設担当者が調査への協力が困難と判断した者とした。

調査項目は、個人属性として性別、年齢、介護保険サービス利用期間、要介護認定、同居家族、不安に関する項目及び情報共有に関する項目とした。満足度を評価する尺度として Client Satisfaction Questionnaire 日本語 8 項目版(以下 CSQ-8J とする)を使用した。

まず上記の個人属性別に、CSQ-8J 得点の平均値の差を検定した。次いで、CSQ-8J

得点を従属変数，性別，年齢，介護保険サービス利用期間，要介護認定，同居家族，公費受給，住環境，社会の変遷に関する不安，自身の健康に関する不安，配偶者の健康に関する不安，「自分の病気及び治療に関する情報が医療職者と福祉職者間で共有」，「自分の病気及び治療に関する情報が福祉職者間で共有」，「自分の療養生活への意向に関する情報が医療職者と福祉職者間で共有」，「自分の療養生活への意向に関する情報が福祉職者間で共有」を独立変数とする重回帰分析（変数減少法）を実施した．統計学的検定には統計ソフト SPSS Statistics 25.0J for Windows を使用し，有意水準は 5%未満とした．

## 結 果

230 名に調査協力依頼を行った．回答が得られた 220 名のうち，不完全回答を除いた 205 名（有効回答率 93.2%）を分析対象とした．性別は，男性 73 名(35.6%)，女性 132(64.4%)であった．平均年齢は  $81.2 \pm 7.6$  歳，平均介護保険利用期間は  $38.1 \pm 38.2$  月，CSQ-8J の平均得点は  $24.8 \pm 5.7$  点であった．個人属性別に，CSQ-8J の平均得点が有意に高かった項目は，公費受給有り ( $p=0.020$ )，「病気及び治療に関する情報が医療職者と福祉職者間で共有されている」 ( $p<0.001$ )，「病気及び治療に関する情報が福祉職者間で共有されている」 ( $p=0.010$ )，「療養生活の意向に関する情報が医療職者と福祉職者間で共有されている」 ( $p<0.001$ )，自分の健康不安がない ( $p=0.015$ ) などであった．重回帰分析（変数減少法）の結果，CSQ-8J 得点に有意に関連していた項目は「病気及び治療に関する情報が医療職者と福祉職者間で共有されている」のみであった ( $p=0.007$ )．

## 考 察

本研究の CSQ-8J の平均得点は  $24.8 \pm 5.7$  点であり，先行研究と比較すると低値を示した．本研究の対象者は自宅から施設に通いリハビリテーションを行っており，心身の健康が回復途上であった．一方，先行研究は健康状態の改善のための手術などの治療が終了した対象を含み，この健康状態の違いが CSQ-8J 平均得点の違いに影響した可能性がある．

重回帰分析の結果，「病気及び治療に関する情報が医療職者と福祉職者間で共有されている」の項目が医療福祉サービスの総合満足度の関連要因であった．この結果は，先行研究と同様に関係者間での病気理解に関する情報共有の重要性を示唆している．日本の福祉現場では，国家資格を有する者や各自治体や民間の養成講座を修了した者等の異なる教育背景をもつ福祉職者がおり，このことが「病気，治療に関する情報」の共有の程度に影響した可能性がある．今後，関係機関の連携を深めるとともに，関係者で共有すべき「病気及び治療に関する具体的な情報」を明確にする必要性が示唆された．